広報
うしく
Ushiku City News
2016
9/1
No.1176
茨城県牛久市

リニューアルした牛久駅東口駅前広場をご紹介します！

CONTENTS —主な内容—

02-03｜特集「牛久駅東口駅前広場が新しくなりました」
04｜平成28年第3回市議会定例会提出予定議案
07-09｜平成28年度後期 牛久市生涯学習センター生涯楽習講座一覧
12-13｜平成27年度および平成28年度 職員の人事行政の運営状況をお知らせします

©SHINOBU ARIGA

【平成28年8月5日】牛久駅前かっぱつ化実行委員会 太田二郎氏撮影

牛久駅東口駅前広場が新しくなりました

【平成22年】
牛久駅前かっぱつ化実行委員会 太田二郎氏撮影

長年、牛久の玄関口として利用されてきた牛久駅。まちの発展とともに、東口は歩行者の安全性や利便性などの課題も見受けられるようになりました。そこで、駅前広場の改修が進められることになり、この機会に市民の皆さんがもっと愛着を持ち、いこいの場となる空間にしようと、平成21年に市民の皆さんと協働で牛久駅東口駅前広場の計画がスタート。約7年をかけて、今年7月末に牛久駅前は多くの人々が集い交流する、「いこい」・「安らぎ」・「にぎわい」の場所として生まれ変わりました。

芝生の広場はいこいの場所に

オープニングイベントで行われた
市内の親子による広場の芝張り

美しいテラコッタのレンガ畳

新しい駅前広場誕生

新しい牛久駅東口駅前広場の大きな特徴は、2カ所の広場にあります。

駅の階段を下りた正面の広場は芝生を張り、子どもたちが走り回れる公園のような雰囲気に。広場が見渡せる場所には、友好都市であるイタリアのグレーヴェ・イン・キアンティ市との友好のシンボルとして、テラコッタ(素焼きの焼き物)の甕(かめ)のモニュメントが飾られました。このイタリア産のテラコッタは牛久駅東口全体の歩道にもレンガとして用いており、美しいレンガ敷きはシャトーカミヤに代表される、「ワインのまち」にふさわしいものとなっています。

また、駅の階段を下りて左手にある広場は、レンガ敷きのみのシンプルな空間とし、市民の皆さんがさまざまなイベントで活用できるフリースペースにしました。

この2つの広場どちらからも見えるロータリーには時計台を設置し、交通機関という役割のみならず、イベントスペースとして使いやすい広場となりました。

完成記念式典

～新しい駅前のシンボルをお披露目～

完成した東口駅前広場が、広く長く愛される場所になることを祈って、8月5日、市民の皆さんとともに完成記念式典を行いました。

式典では、常陽銀行から、創立80周年記念事業として「時計台」を寄贈していただき、感謝状の贈呈と除幕式を行いました。

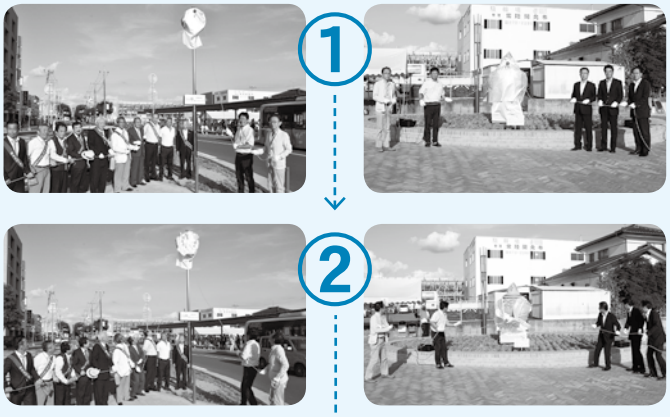
今後牛久駅前のシンボルとして、まちの活性化に大きく貢献することでしょう。皆さんも新しい駅前のシンボルをぜひ見に来てください。

完成記念式典の様子。当日は大勢の人たちが集まり、新しくなった牛久駅東口駅前広場を盛大にお祝いしました

～除幕式～ 新たな駅前のシンボル

「時計台」
（牛久ロータリークラブ寄贈）

「テラコッタの甕」
（常陽銀行寄贈）



広場の愛称も決定！

8月5日の完成記念式典と共に、市民参加のオープニングイベントも開催し、新しい広場の愛称を発表しました。その名も、「やっぺやっぺ広場」。

愛称の名付け親である中村忠男さんは、「30年前に牛久に引っ越してきたとき、地元の人が、『やっぺやっぺ』と言っているのが印象的だった。かっぱ祭りで踊る河童ばやしでも『やっぺやっぺ』と言って踊る。最初は意味が分からなかったが、『みんなで一緒に楽しくやろう』という意味だと分かった。この牛久市民に馴染みのある言葉をみんなが集まる広場につけました」と愛称の由来について説明しました。この愛称が、「みんなで使える広場を作りたい」という当初の思いとマッチし、応募総数188作品の中から選ばれました。

こうして、長年の市民の思いが実り完成した牛久駅東口駅前広場。新しいシンボルと、「やっぺやっぺ広場」の愛称のもと、今後末長くにぎわい、皆さんに愛される広場になることが期待されます。

広場を活用して開催した「ほろ酔い横丁」

オープニングイベントの様子

牛久栄進高校書道部による書道パフォーマンスで広場の愛称が発表されました